目　次

はしがき

序　章　とにかくパーティを続けること……1

1　ローカルフェスとは何か　1

地域性と継続性　グローバル化とローカル化　愛好者が作るフェスカルチャー
手づくりと市民参加

2　コロナ禍のモラルパニックから　4

「集まる」こと、「移動する」こと　地域の英雄から悪役へ　なぜ諦めなかったのか

3　継続と変化　6

変化あるいは再帰性　フェスの制度化　発展によってのみ辿り着ける　地元の宝

4　本書の構成　10

第Ⅰ部　フェスが地域と出会うとき

第1章　二〇〇〇年代のフェス事情――国内フェスシーンの生成と展開……15

1　フェスの増加と地域性の増大　15
どれくらいのフェスが行われているのか　本書の射程　参加者から主催者へ

2　二〇〇〇年代におけるフェスの定量的観測　18
参照するデータ　『ライブ・エンタテインメント白書』　ACPC基礎統計
「フェスティバル・トリッパー」

3　フェス市場の拡大　21
段階的な成長　開催状況の推移　フェスの平均寿命　継続＋新規の安定期
地理的・時期的な広がり

第2章　四大フェスからローカルフェスへ……29

1　フジロックから四大フェスへ　29
「ただのコンサートではなく、本物のフェスティヴァル」　「フェスとは何か」という問い
四大フェスの登場　ロックファンの待望、フェス文化の出発点

2　地方プロモーターの活躍　33
なぜ「ロックフェス」なのか　オールスタンディングライブの普及　プロモーターと地域

3　ローカルフェスの登場　37

主催者の多様化　アマチュアとローカル　寡占か分散か

コラム1　博士のフェス探訪記――福島「LIVE AZUMA」篇……42
関西からはるばる福島へ　ローカルフェスの面白さが詰まっている
ライブ・アズマは何にも似ていない

第3章　ローカルフェスを読み解くための視座……45

1　フェスは社会の役に立つのか　45
社会的有用性と公的機関の関与　経済、観光、資源

2　経済波及効果と観光資源　48
経済波及効果　観光資源としてのフェス

3　都市戦略としてのフェスティバル　51
都市資源の活用　四つの資源　三つの型

4　理念型と流動性　59
フェスの空間構造と地域社会への接点　開催形態の変容と公共性

第4章　主催者アンケートからみえるフェスと地域の関係……61

1　フェス主催者アンケートの概要　61
目的と方法　調査対象　回答者のプロフィールからみえるローカルフェスの実態

2　行政や地域とのつながり　64
国や行政とのつながり　コロナ禍で可視化された公共性　公的な機関・団体とのつながり

民間団体や市民とのつながり
3　フェスを支えるもの　70
経済的資源の活用　物的・空間的資源の活用　社会的・文化的資源の活用
象徴的資源の活用
4　フェスが地域にもたらすもの　75
経済的資源　物的・空間的資源　社会的・文化的資源　象徴的資源
ポジティブな影響と伸び代
コラム2　INAZUMA ROCK FES.――マスとローカルの同居が魅力……79
ショッピングモールに隣接する商店街　西川貴教が手探りで始めたからできた、独特の世界観
マスカルチャーとローカルカルチャーが同居する地方フェス

第Ⅱ部　ローカルフェスという社会実験

第3章　手作りフェスが「地域の宝」になるまで――hoshioto（岡山県井原市）……85
1　ヘッドライナーは星　85
グラウンドと裏山　星空と音楽
2　地元版フジロック構想　88
ライブハウスとフジロックの往復　フジロックの魅力を伝えたい　演奏の場を作る

3　地元密着型完全インディペンデント野外フェス　92
フェスを手作りする　ローカルシーンの再編　ゲストアーティスト
4　フェスの変節　94
実績と信頼　ライブハウスとフェスをつなぐ　会場移転　ラインナップのバランス
5　地域に興味が湧いた　99
ライフステージの変化　「このまま地元に住むんだろうな」　地域との向き合い方
コロナ禍での中断　三度目の正直
6　地域に受け入れられるフェスへ　105

第6章　「よそ者」が手がける地域のフェス――ONE MUSIC CAMP（兵庫県三田市）……108
1　ベッドタウンのブティック・フェスティバル　108
秘境のフェス　会場に導かれて　関西屈指のキャンプイン・フェス
2　「インディペンデント」から「みんなであそぶ」へ　112
ブティック・フェスあるいは商店街系　バンドのような主催者　バックヤードのないフェス
音楽へのこだわり　みんなであそぶ
3　ブランディングとデザイン　118
デザインへのこだわり　ローカルフェスとインターネット　誰に伝わったのか
何を伝えるのか
4　ライフワークとしてのフェス　124
主催者としての視点　「好きなこと」と「事業」　「だいたいわかる」
5　地域への拡張　127

市役所への飛び込み営業　子育て世代と関係人口　地域との関係を深める
コロナ禍で可視化したファンの存在　株式会社ＯＮＥ
6 地域資源に魅せられて …… 132
コラム3 観測史上最も暑い夏。熱中症、気候変動、日本の夏フェス開催はどうなる？…… 134
夏フェス暑すぎる問題　サマソニ東京会場の最高気温　海外では暴動の事例も
気候がフェスに与える影響
第7章 「表現の場」としてのローカルフェス――ＩＴＡＭＩ ＧＲＥＥＮＪＡＭ（兵庫県伊丹市）… 139
1 妄想会議からフェスが生まれるまで …… 139
ママチャリでフェスへ　イベントのまちで「本格的な」フェスを立ち上げる
「やるてい」で動き出す　地域にフェスがあることをプラスに感じる人
2 無料フェスの作り方（その一） …… 145
どうやって無料でフェスを開催するのか　収入源　協賛金　出店料　物販
募金／クラウドファンディング　「そのやり方しか知らなかった」
3 無料フェスの作り方（その二） …… 151
どこまで支出を抑えられるか　社会・文化的資源による代替
プレゼンテーションを繰り返す　グリーンジャムの一夜城
4 コミュニティと連帯感 …… 156
「表現」を持ち寄る　「表現者」と「表現のプラットフォーム」
5 表現を続けよう …… 159
市民文化祭　グリーンジャムＴＶ　グリーンジャム'22　継続的な賑わい

6　無料フェスがもたらすもの　164

第8章　音楽フェスの公共性……167
——OUR FAVORITE THINGS（岐阜県各務原市）、結いのおと（茨城県結城市）

1　文化財から広がるフェスの歩み——OUR FAVORITE THINGS　167
開放感と落ち着き　重要文化財でのライブイベント　河川環境楽園への拡張
再び村国座へ

2　変化する運営体制と名目　172
行政から実行委員会へ　公共事業としての名目

3　包括的な取り組み　175
シティプロモーションと移住定住促進　行政上の建て付け　フライヤーが育んだつながり
市民が主体のまちづくりへ　役割を見直す

4　歩いて回れる距離のフェス——結いのおと　181
住宅街のサーキットフェス　きっかけはマルシェ　三〇万円のスタートアップ

5　フェスは何をプレゼンテーションするのか　186
ユニークベニュー　徒歩圏と生活圏　活動のショーケース

6　まちの新陳代謝が良くなる仕組み　190
フェスを開催するもう一つの目的　フェスが育む創造的な土壌

7　公共性を育み、賑わいを持続させる　192

コラム4　誰もが主役になれる場所——プリマヴェーラ・サウンド二〇二五の包摂性……194
フェスの批評性　象徴としてのヘッドライナーたち

ノーバディ・イズ・ノーマル——継続する姿勢　ただそこに「いる」ことが許される場所
終　章　ローカルフェスの意義とこれから……199
1　ローカルフェスの成り立ちと地域への影響　199
音楽愛好者の衝動　個人の衝動と地域社会の承認
2　続けること・変化すること　200
組織の変化　形態の変化　目的の変化
3　地域資源の活用　202
地域資源の組み合わせ　資金調達の多様化と不安定性　非日常が書き換える場所の意味
参加型プラットフォーム　地域性の可視化
4　ローカルフェスの可能性　204
持続に向けた経済基盤　場所の再解釈と公共性　人口動態と文化
地域アイデンティティの表象
参考文献　209
あとがき　213
事項索引
人名索引